

くらしにやさしい街 … 志木、よりよい環境を未来に残すために

# エコシティ志木通信

2015年12月1日  
(No. 80・順調にいきもの図鑑づくりつづ号)

2015  
\*  
12月

NPO法人エコシティ志木

代表理事 天田 眞

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

<http://kappa-no.net/eco-shiki/>



写真：天田 眞

志木につらなる川の風景 (8)

## 柳瀬川の河畔林「淵の森」

空堀川との合流点から柳瀬川の上流に向かうと、川沿いに道はなく両岸はコンクリートの急傾斜護岸です。武蔵野線の上流で蛇行を繰り返す西武池袋線をくぐると左岸に「淵の森」が広がっています。雑木林が川と一体化し柳瀬川原風景のようです。1996年に、開発されなかった約4,600㎡の林が宮崎駿氏の寄付をきっかけに公有地化（東村山市と所沢市）されました。対岸の「八郎山」も2008年に公有地化されています。（天田 眞）

9月20日（日）志木の自然観察会（秋）

## 五感で感じる川のまち志木

いろは親水公園での「志木の自然観察会」は3回目となります。9月20日は晴天に恵まれ、多くの方に参加していただきました。

今回の観察会は、川と周囲をより身近に観察していただくため、新河岸川の土手を宮戸橋まで右岸から左岸と往復するルートでした。また、副テーマを「武蔵野台地と崖」にもとめ、川と台地の関係も学習しました。

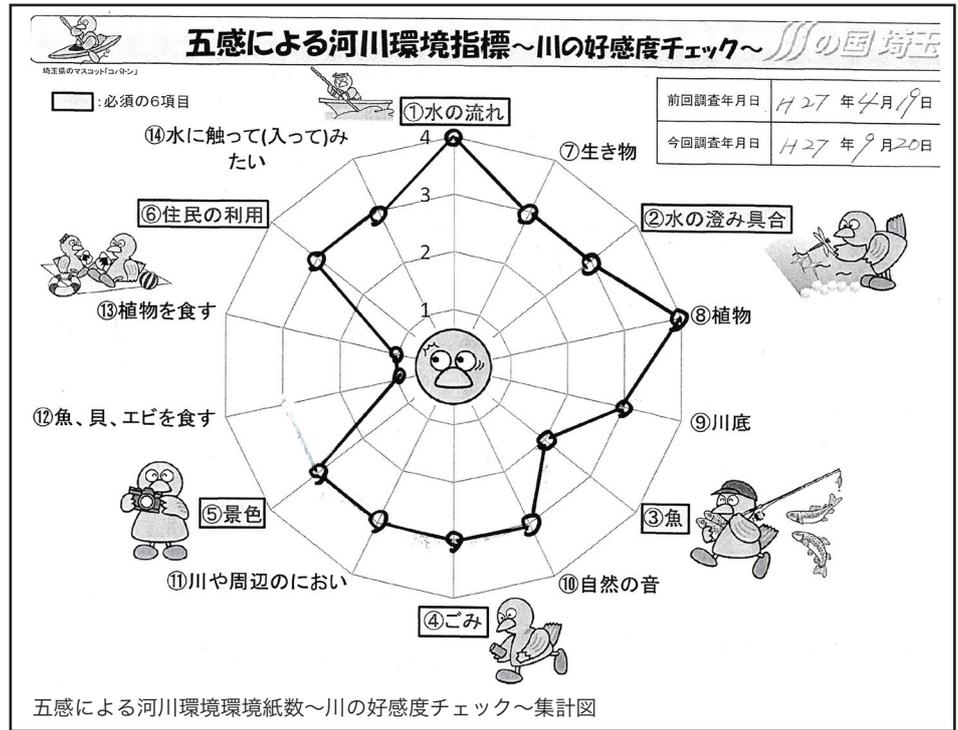
旧村山快哉堂を出発し、柳瀬川と新河岸川の違いを学んだ後、右岸から見える田子山富士方向の崖を観察しながら「こもれびのこみち」に行き、自然保護活動の説明を受けました。

つぎに新河岸川の右岸を歩きながら秋の草花を観察し、朝霞市との境界では野火止用水跡、宮戸の斜面林などを見て、盛りだくさんの自然を楽しみました。

宮戸橋を渡り左岸土手を今度は上流に進み、ヨシ・オギ群生地では外来植物の駆除の説明を聞き、



当日の参加者たち。何を見てるのかな・・・



カヤネズミの生息地などを見て、三時代の堤防の説明を受けました。また川の設備として、大量降雨の排水対策としての「郷土樋管」を見て、富士下橋に戻りました。最後に「五感による河川環境指標」一川的好感度チェックの記入を全員で行い閉会となりました。

いろは親水公園は柳瀬川・新河岸川の合流点にあり、志木市の中でも多くの自然と歴史が残る地域といえます。ヨシ・オギ群落におおわれた自然ゾーンでは、今年もカヤネズミの巣を見つけることができました。カヤネズミは最小のネズミで、ヨシ・オギの茎の中程に葉で作ったボール状の巣を作ります。

この地には野火止用水や江戸時代からの堤防や防排水施設など古い歴史が残され、また新河岸川舟運による志木市の昔の繁栄の歴史も貴重です。

最後に皆様に記入いただいた「五感チェック」の結果をレーダーチャートとしました（上図）が、川的好感度の指標として毎年続けて実施しています。

（加藤健二）

## カヤネズミの巣をさがそう！

昨年、いろは親水公園「ヨシ・オギ群落保全地」に於いて2回のイベントを行ないました。その後、この場所を「カヤッ原」という様に、少し親しみを持って呼んでいます。今年も、「カヤネズミの巣をさがそう！」と題して、10月4日にイベントを行ないました。今年のプログラムは、虫さがし、カヤネズミの巣さがし探検、オオブタクサ抜取体験、矢投げ遊びです。

会場には、柳瀬川移動水族館も展示し、柳瀬川の魚を見てもらいました。この水槽は、いつも人気があり、大勢の参加者が、魚に興味深く見ていました。最後に全員で、マシュマロバーベキューを行ないました。

集合時間には、スタッフを含めて79人が集まり、挨拶、イベント説明のあと、紙芝居で、カヤネズミについての理解を深めてもらいました。

このあと、3グループに分かれて、それぞれのイベント会場を回っていきます。

虫さがしと矢投げの会場では、専門のスタッフにより、イベントを楽しんでもらいました。3グループは、担当スタッフの指導の下、カヤネズミの巣探し、オオブタクサの抜取体験を行ないながら各会場を回りました。

私は、矢投げを担当していましたが、小さい子から大人まで楽しんでくれたと思います。最後のグループには、矢の材料（ヨシ・オギ・セイバンモロコシ等）の刈取りから自分で行なってもらいましたが、夢中で作っていました。来年は全グループに、矢を作ってもらおうと思います。勝手に来年もやる事にしてしまいました。

マシュマロバーベキュー用のコンロは、七輪と折り畳み式のバーベキューコンロです。早めに火を点けて、着火剤の臭みを抜いておきます。

全体での挨拶も終えたあと、材料を手にして、コンロの周りに集まりました。中には13個食べたとかの声も聞こえてきました。マシュマロバーベキューを楽しみながらの流れ解散となりました。柳瀬川水族館を何時までも見ている子もいて、魚もうれしかったのでは。

参加いただいた皆さん、来年またお会いしましょう！スタッフの皆さん、大変お疲れ様でした。



来年も頑張りましょう。

このイベントに先立ち、通路の草刈を9月29日(火)に行ないました。手作業でとても大変な作業でしたが、皆さんに楽しんでもらい、良かったと思います。  
(青木明雄)

## 小学校への学習支援

志木市内の小学校では、自分たちの住んでいる地域について学ぶ総合学習の時間があります。エコシティ志木では、学校の依頼にもとづいて柳瀬川をフィールドにした授業のお手伝いをしています。

10月～11月にかけて、宗岡三小5年生、志木四小5年生、志木三小3年生、志木小5年生に実施しました。志木四小は初めてのお手伝いでした。

天田代表から柳瀬川が狭山湖の近くに源流があり、そこから新河岸川と合流し隅田川を経て海に注ぐこと。柳瀬川の水は雨水や地下水だけでなく、東京都の下水処理場できれいに処理された水が半分以上を占めていることと併せて、水の循環の話がありました。

川に入って魚や水生昆虫を捕っての生き物調べには、子供たちは大変興味を持って活動していました。寒くなり捕れる魚の種類も少なくなりましたが、マハゼが捕れることもあり柳瀬川が海と繋がっていることが実感できることもありました。

また、陸では、五感（見る、聞く、嗅ぐ、味わう、触れる）をとおして自然を観察することを学びま



志木小学校の総合学習

した。さらに食物連鎖と生態系ピラミッドの話を中心に、自然界にはゴミがないこと、最近の河原にはオオブタクサ、アレチウリ、セイバンモロコシなどの繁殖力が旺盛な外来植物に占拠され、背丈の低い植物や在来の植物が育ちにくくなっていることを知ってもらいました。

志木市を流れる川の流域には、まだ豊かな自然が残っており、自然を守る大切さを少しでも知ってもらえたらと願っています。（山崎光久）

10月12日（月・祝）

## つむじ銀杏で街あわせ

志木ニュータウンでは初期の街区は入居から35年もち、高齢化や人口減少が急速に進み、中心にあるぺあも～る商店街はだいぶ前から空き店舗が目立っています。そんな空き店舗スペースを利用し、地域の活性化や連携をはかるイベントとして、住民のグループ「たてのよこいと」が商店会と協力して毎年開催しているイベントです。会場設営も実行委員と参加者が協力して行なう手づくりのスタイルで続けています。手づくり品販売・フリーマーケット・東北の地酒試飲会・DIYコーナー・おつかいチャレンジ・こども縁日・子どもフリマ・ミニ四駆レースなど、3か所の会場に分かれて開かれました。

当会では、「身近な自然ミニ博物館」として、毎年出している昆虫の抜け殻などの標本や柳瀬川の魚の展示の他、今年は新たに、生きているアゲハなどの幼虫6種（ナミアゲハ・ナガサキアゲハ・



ジャコウアゲハ・アオスジアゲハ・アカボシゴマダラ・ホシホウジャク)、蛾の蛹7種（エビガラスズメ・キイロスズメ・モモスズメ・サザナミスズメ・ホシホウジャク・ホシヒメホウジャク・フクラスズメ）を展示しました。この日に向けて数日前から採集したものです。（天田 眞）

10月16日(金)～18日(日)

## いろはふれあい祭り

一日目。オープニングセレモニーとしきっこミュージックフェア終了後、志木小学校児童が展示見学に来ました。当会は「柳瀬川水族館」「身近な自然の小さな博物館」「活動パネル」などを展示をし、児童達は生きている魚類や昆虫類の抜け殻標本、そして特にコウモリは滅多に見られない物でしたので興味を示していました。

二日目。児童や親子連れなど大勢の方が見え、説明が大変でした。準備中に展示していたエビガラスズメのサナギが容器の中で成虫になって、羽が変形して飛べなくなっているというハプニング



もありました。

三日目は、来場者は少なかったが、当会のコーナー「水塚について」のパネル展示があるので一般の方にはゆっくり見て頂きました。

三日間お疲れ様でした。

(山口美智江)

11月1日(日)～3日(火) 第45回「市民文化祭」

## 『木の実工作いろいろ』

市民文化祭は市民の文化活動の総合発表会で、今年は45回を迎えました。美術、芸能、絵画、詩吟、民謡、生花、俳句、体験教室等々の催しのうち、当会は体験教室の「木の実工作」を広い工室で3日に担当いたしました。

対象者は小学生が大半ですが、親子で参加の人も多く、中には子どもよりも親の方が熱心に絵具での色付けなどして、親子ともども思い思いに楽しんでいただいているように思います。

工作は自然の贈り物で作りますが、ドングリ、松かさ、落ち葉、竹やまたドングリ釣りなどがあります。子供たちも最近では手にすることが少なくなった、自然の材料を使ってドングリに顔を描



いたり、松かさはクリスマスツリーに変身といったいろいろな作品ができていきます。

このように子どもたちを見ていると、手元に材料があれば、各人の自由な想像力でいろいろな作品に変えていく可能性を持っているのだと思いました。参加した皆さんの思い出の一コマになってくれればと思います。(加藤健二)

11月7日(土)

## 黒目川・秋の川まつり 2015

新河岸川や柳瀬川の工事や管理を担当している埼玉県朝霞県土整備事務所の主催で毎年開催されているイベント。朝霞台駅から徒歩5分ほどの黒目川に面した朝霞県土駐車場で行なわれました。

模擬店・音楽ステージ・子ども工作コーナー・消防や警察の展示などの他、黒目川に親しむ会による黒目川水族館、埼玉県南部漁協による投網体験、県下水道公社による下水道実験コーナーなど、当会の活動に関係のある出し物もありました。ま



た、朝霞県土の事業紹介や新河岸川流域の市民活動に関するパネル展示コーナーもあり、当会でも活動状況の展示(水塚調査・外来植物駆除活動・日頃の活動の写真等)を行いました。(天田 眞)

# 初期のおもな活動

NPO法人エコシティ志木代表理事

天田 眞



ワークショップのようす (1999年)

エコシティ志木設立時の目的は「・・・市民の目で見、考えた志木市の総合的な環境基本計画(ローカル・アジェンダ)を市民、行政、企業が参加して策定し、その内容の実現に向け行動していくことを目的とします。」(規約より)ということでした。98年3月に発行した『市民がつくる志木市の環境プラン』は、まだこの目的の一部に過ぎないものの、既に策定の準備が始まっていた志木市の環境基本計画に向けた市民の提言でもありました。

環境基本計画は国や各自治体で策定するものですが、まだ自治体での策定が少ない中、志木市では99年3月の策定に向け、98年4月に、市民・事業者からなる「環境市民会議」を設置しました。委員は全員が公募で、応募者全員が採用になり、委員26名(内市民委員24名)の内、正副委員長を含む17名がエコシティ志木の会員でした。こうしたこともあってか策定期間は短かったものの、環境プランの内容も多少は反映されました。計画は理念だけ並べ立てればいいわけではなく、市民プランにしる行政計画にしる、その内容が実現されるような行動が伴わなければ意味がありません。

ではその当時(発足の95年から環境プラン策定・市の環境基本計画策定の99年あたりまで)、エコシティ志木ではどのような活動をやっていたのでしょうか。私は当初から会員でしたが役員で

はなく、余り正確なことは覚えていませんが、当時の「エコシティ志木通信」等を頼りに、振り返ってみました。

## ●環境プランや環境基本計画の学習

この時期に最も多いのは、環境プラン策定に向けて、外部から講師を招いて、あるいは会員同士での学習会やワークショップで、全体あるいは部会ごとに行なっています。環境プランの策定終了後も市の環境基本計画に向けての学習をしています。

## ●他の団体の活動に参加

まだエコシティ志木の体制が整わない頃は他の団体の活動への参加が目立っています。

当時活動していた「志木・子どもたちに自然を残す会」主催の自然観察会や雑木林の手入れ等、志木公民館主催で度々行われていた自然観察会等への参加。志木市立教育サービスセンターと(財)埼玉県生態系保護協会志木支部の主催による自然観察会、「ツバメとイワツバメの観察会」「トンボとチョウを見る会」「鳴く虫の声を聞く会」等は、始めは参加、後に協力、さらに共催になり、今も続けている「志木の自然観察会」につながっています。また、今も続けている生態系保護協会

の「ガン・カモ調査」にもこの頃から協力しています。

### ●水質調査

朝霞のグループから始まって間もない新河岸川水系の水質調査に96年に参加し4か所の調査を行っています。97年からは中学生が参加し、調査個所を8か所にし、毎年1回の調査が現在まで続けられています。

### ●湧水調査とヒートアイランド調査

こもれびのこみち湧水の調査と市内のヒートアイランドの調査で、市の職員でもある泉二さんを中心に、前者は会の設立準備中の95年6月に地下水位と湧水量の計測装置を設置し、半年間の継続測定を行ったもの。後者は96・97年の夏に行かない、車で短時間の内に市内を走り回って、屋根に取り付けた温度計で数十か所の気温を測定したものです。

### ●川を歩く会

川に沿って歩くエコツアーの企画で、96年に柳瀬川を2回、97年からは新河岸川を歩き、その後の定番になりました。今はぶらり散歩の名称で実施しています。

### ●プールのヤゴ救出授業

小学校向け環境学習プログラムで、96・97年に宗岡四小で実施、98年には校長会で説明を行った結果4校で実施しています。99年には「とんぼになれ！プールのヤゴ救出作戦マニュアル」を発行しました。

柳瀬川に沿って歩きながらの野鳥調査で、97年から月2回実施、後に月1回になり、今は柳瀬川生き物ウォッチングの名称で続いています。2000年には報告書として「柳瀬川散歩」を発行しました。

### ●ネットワークの活動への参加

建設省荒川下流工事事務所が95年に立ち上げた「柳瀬川流域川づくり懇談会」に参加。現在の柳瀬川流域ネットワークと新河岸川流域川づくり連絡会のもとになったものです。

また、新河岸川水系の水質調査のネットワーク「新河岸川水系連絡会」（後に新河岸川水系水環境連絡会）に96年から参加しています。

### ●オオブタクサ抜き取り作戦

柳瀬川の水際の刈り残し部にオオブタクサが繁茂するようになったため、98年に試験的に抜き取りを実施、99年には2回の抜き取りを行いました。現在の外来植物駆除作戦につながるものですが、しばらくの間は年に1～2回の小規模なものでした。

### ●斜面林の手入れとお楽しみ会

99年から毎冬に1回ずつ実施しましたが、現在行なっている様な本格的な緑地の管理作業ではありません。

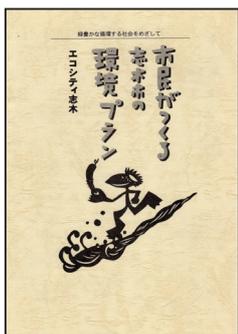
### ●尾崎農機具資料館プロジェクト

幸町2丁目の尾崎政二さんが自宅で公開していた資料館の価値に着目し、その再整備を目指した活動で、98年頃から始まり、99年より本格化しました。

### ●柳瀬川野草調査

エコシティ志木の事業でなく教育委員会の事業ですが、殆どのメンバーがエコシティ志木会員で、99～2000年に調査を行い01年に「柳瀬川の野草」を発行しました。

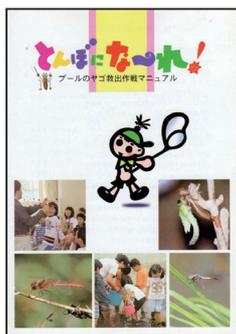
★「ゴミとエネルギー」「保健・医療・福祉」部会の活動は次回に取り上げます。



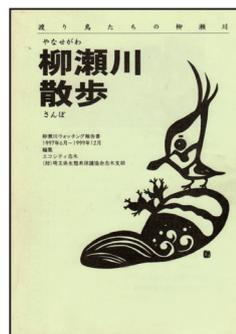
市民がつくる  
志木市の環境プラン  
(1998年3月)



志木市環境基本計画  
(1999年3月)



とんぼになれ！  
プールのヤゴ救出作戦マニュアル  
(1999年5月)



柳瀬川散歩  
(2000年3月)



柳瀬川の野草  
(2001年3月)

9月27日（日）志木コミュニティまつり

## 川に親しみ郷土再発見

志木市コミュニティ協議会の創設35周年を記念して、いろは親水公園を会場に「志木コミュニティまつり」が開催されました。志木市のシンボルである川を会場に、和舟回遊や人力車遊覧、ふれあい福市、大声コンテスト、芸能ステージなど多彩なイベントが開催されました。

コミュニティ協議会の構成団体でもある当会は「ぶらり新河岸川自然散策と志木の歴史散歩」の自然散策を担当し、参加者を案内しました。

公園内のヨシ・オギ群落保全地に棲むカヤネズミについてや舟運に利用されていた新河岸川と武蔵野台地から流れくる柳瀬川の違い、江戸時代の惣囲堤をはじめとした三代の堤防の紹介など、身近にあるが意外と知られていない豊かな自然、自然と共存してきた人々の知恵を案内しました。



大人気だった和舟による回遊

また、午後で開催された歴史散策は「志木のまち案内人の会」が担当しました。

（毛利将範）

## 斜面林について

エコシティ志木では、市内の2か所の斜面林を毎月定例的に手入れしています。

この2か所には湧水があり、4月～6月に湧水路の手入れを行ないました。水路に溜まってしまった落葉や土の掻き出しを行ないました。

特に「こもれびのみち」の湧水路については、水路内まで蔓延ってしまった草の抜取や、スコップでの水路の掘り下げを行ないました。見た目もスッキリと水の流れの見える湧水路になりました。

10月には、拾い溜めておいたゴミを分別して、処理をしました。以前よりは少しゴミの量も減ってきたように思います。ただ、紙おむつが袋に詰めてあちこちに捨てられていたり、手の届きにくい低木が茂っている奥に投げ捨てられて溜まっていたりと、故意に運び込まれたようなゴミも後を絶たしません。残念なことです。

今年も、斜面林には枯葉がパラパラと落ちてき



ています。大量の落ち葉の片付けが大変な時期になってきました。一方で、春に向けて花咲く「ミツマタ」の葉も青々しくなり、蕾も膨らんできています。斜面林にいるいろいろな生き物たちのより良い環境を維持していくためにも、定例的な手入れがとても重要であると考えています。

（青木明雄）

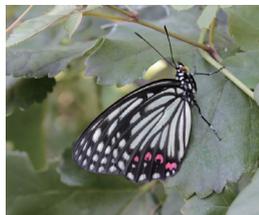
- ①ミヤマアカネ(1) → 8月 16日(日) 柳瀬川・志木中学校前あたり [毛利将範]
- ②ショウジョウトンボ(1) → 8月 16日(日) 水谷田んぼ(富士見市) で [毛利将範]
- ③ヤマブキ(花) → 9月 19日(土) 富士見市水子。自宅の庭で季節外れのヤマブキの花が咲いていた [富士見市水子の渋谷博さんより]
- ④アカボシゴマダラ(1) → 9月 20日(日) 生き物図鑑づくり現地見学会。朝霞市宮戸の斜面林で
- ⑤チュウサギ(2) → 9月 22日(火・祝) 稲刈りが行われている水谷田んぼにチュウサギが2羽来ていました。アキアカネがあちこちで産卵していました [毛利将範]
- ⑥ルリビタキ(♀ 1) → 9月 23日(水・秋分の日) 西原斜面林 [毛利将範]
- ⑦ワカケホンセイインコ(群れ) → 11月 16日(月) 志木本町 1丁目の西山歯科医院裏の木が茂っているところで、ワカケホンセイインコだと思われる緑の鳥の群れを見ました [藤井史子]



①ミヤマアカネ [毛利]



②ショウジョウトンボ [毛利]



④アカボシゴマダラ [毛利]



⑤チュウサギ [毛利]



⑥ルリビタキ [毛利]



③ヤマブキ [渋谷]

環境 ひとくちメモ (38) 伊藤 智明

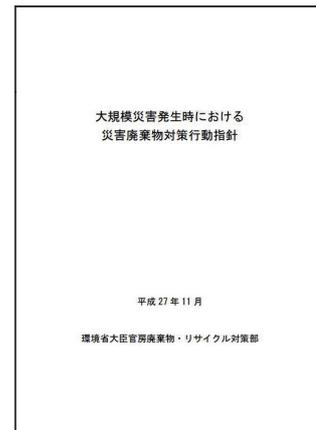
「大規模災害発生時における災害廃棄物対策行動指針」

環境省は、東日本大震災及び近年の災害の教訓等を踏まえ、大規模災害時における災害廃棄物対策を更に推進するため、「大規模災害発生時における災害廃棄物対策行動指針」を策定しました。これは、大規模災害時における災害廃棄物処理に関わる関係者が担うべき役割や責務を明確化し、関係者による連携・協力体制を構築することにより、“オールジャパンでの対応”の実現を目的とした指針となっています。

なお、この指針での大規模災害とは、「生活環境の悪化を防止することが特に必要と認められるような著しく異常かつ激甚な非常災害であり、非常災害の中でも災害対策基本法に基づく特例の適

用を想定した災害」と位置付けられています。

放射性物質により汚染された廃棄物などの災害廃棄物も出てきていますので、具体的な計画がどのようなものになるか、引き続き注目していきたいと思います。



参考 環境省 報道発表資料 平成 27 年 11 月 16 日  
「大規模災害発生時における災害廃棄物対策行動指針の策定について」  
<http://www.env.go.jp/press/101699.html>

## ☆会員状況

2015年度更新済み（11月22日現在）

正会員(個人) 48

正会員(団体) 2

賛助会員 2

(株)アドバンス・ネット様より子ども用ライフジャケット7着の寄付をいただきました

★本会の財政基盤は、会員の方の年会費が頼りです。

★今年度も継続更新をよろしくをお願いします。



### ■当会の団体正会員

志木おやこ劇場

生活クラブ生協志木支部

### ■当会の団体賛助会員

慶應義塾志木高等学校

志木柳瀬川ロータリークラブ

### ■当会が参加している団体・ネットワーク・登録制度、及び協力団体

志木おやこ劇場

いろは遊学館利用者の会

志木市コミュニティ協議会

志木市社会福祉協議会

柳瀬川流域ネットワーク

新河岸川水系水環境連絡会

新河岸川流域川づくり連絡会

柳瀬川流域水循環再生市民懇談会

新河岸川広域景観づくり連絡会

彩の国南西部地域NPO連絡会

川の国応援団

埼玉県生物多様性保全活動団体登録

彩の国みどりのサポーターズクラブ

志木市公園美化活動会

埼玉県生態系保護協会志木支部

志木のまち案内人の会

志木市放課後子ども教室りんくす

グループぼんぼこ

志木市立教育サポートセンター

市内小中学校

情報満載！  
当会のホームページ

NPO法人エコシティ志木

<http://kappa-no.net/eco-shiki/>

志木まるごと博物館河童のつづら

<http://kappa-no.net/>

## 「いきもの図鑑」の経過について

9月から11月まで月1回のペースで全体会議 & チーム別会議を進めてきました。年内に各項目の記述をあらかじめ終えて、1月から編集に入るという時期を踏まえ、少し厳しい状況になってきております。

11月はチーム別会議を1回追加して実施しました。Aチームについては、チームメンバーでの項目ごとの勉強会が進められています。昆虫については、量も多いことから、整理作業の時間確保に苦勞しています。Bチームについても記述担当を決め、個別に記述が進められ、メールにより、確認が行われています。Cチームの草本は、各担当の説明文を全員でレビューしています。

各チームとも並行して、収録写真の確保を進めていますが、花と実、幼虫と成虫、部分と全体というように特徴ある部分の写真が必ずしも揃っていません。これらをリストアップし、季節に合わせた撮影作業が必要となっています。現地観察会も、毎月1回、予定通り実施しています。

(青木明雄)



館氷川神社での現地観察会



全体会議での検討のようす

甲虫の仲間はコガネムシとテントウムシを取り上げていますが、今回はハムシです。その名の通り葉を食べる虫です。身近に多いのですが小さい虫のためか余り関心を向けられないようです。

サンゴジュハムシは体長6mm位の茶褐色で、スイカズラ科のサンゴジュ（生垣に使われる）やガマズミ等を食べます。春、新芽が開くのと同時に孵化する米粒状の幼虫は、非常によく葉を食べ穴だらけにします。地中で蛹になり6月頃にでてくる成虫も葉を食べますが、サンゴジュでは厚い葉の表面だけを食べます。晩秋になると来春に開く冬芽の脇の樹皮を傷つけて産卵し、その上を糞のような分泌物を塗り付け隠します。

生垣によく使われるヒイラギモクセイは虫食いだらけのことが多いですが、これを食べているヘリグロテントウノミハムシは体長3

～4mmの丸型で、黒地に赤い星が2個ありヒメアカホシテントウによく似ています。5月に活動する幼虫は真っ黄色で平べったく、葉裏から表皮の下に頭を突っ込むようにして葉肉を食べます。成虫は危険を察するとノミのようにはねて逃げます。

ウリ科植物の葉を食べる7mm位のウリハムシ（茶色）とクロウリハムシ（黄色の体の上翅は黒色）は葉を丸く切り取って食べます。まず、トレンチ行動と呼ばれる丸く切れ目を入れる作業を行い、ウリ科植物が出す摂食を阻害する液の流れを遮断し、その後、囲まれた内側の葉を食べるのです。

ムラサキシキブを食べるイチモンジカメノコハムシは8mm位の平べったい形で、上翅などの背面の周辺部は透明なプラスチックのように見えます。幼虫は脱皮殻などを背負っていることが多いです。



サンゴジュハムシの幼虫（ガマズミ）



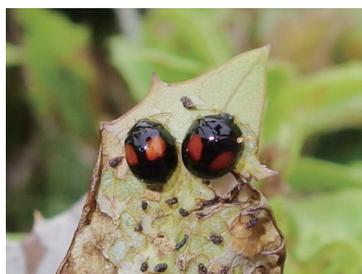
サンゴジュハムシ成虫（サンゴジュ）



ガマズミの冬芽の脇の産卵痕



ヘリグロテントウノミハムシ幼虫



ヘリグロテントウノミハムシ成虫



クロウリハムシ成虫



ウリハムシの仲間の食痕（カラスウリ）



イチモンジカメノコハムシ成虫



イチモンジカメノコハムシ幼虫



## 地球と日本の自然 (19)

# 東京湾と江戸時代の河川

加藤 健二

前号では、氷河期が終わって関東平野の大半が海であったと紹介いたしました。

縄文の人々はこの海で貝を採り、高台では木の実を採集し、小動物を狩猟して生活をしていたので、多くの箇所縄文時代の遺跡が発掘されています。

その後、徐々に海は後退し、1000年前までくると関東平野の多くは平野となりましたが、大半の地域は低湿地帯の状態、利根川を含め河川は東京湾に流れていました。(1000年前の地図参照—江戸川河川事務所)

さらに江戸時代となると、幕府の存続のために東京湾の埋め立てや関東の河川に大きく手を加え、大きな都市の形成を急ぎました。江戸時代の初めには江戸城こそありましたが、江戸城の東南側は海に面しており、現日比谷公園は入り江だったので、この点、江戸の「江」という地名が物語っていると思います。また、今は周囲が埋立地の佃島はまさに島でしたし、日本橋や総武線の線路の南側は海でありました。

江戸時代は関東平野と東京湾の自然に、人間が大幅な変更をもたらした初めの時代と言えます。まず人口増加対策としての土地確保のため日比谷入り江などを埋立て、加えて人々の「衣食住」の基盤を整備する必要から、大阪の佃より漁師を移住させ豊富な東京湾の漁業を産業化し、日本橋



約1000年前の川の流れ。現在の利根川水系の大部分が東京湾に注いでいた様子がわかります。

には魚の市場を作りました。農業や飲料水確保では玉川上水、野火止用水等を掘削し、武蔵野台地の農地整備を進めました。大森では海苔を養殖し板状の乾燥海苔(アサクサノリ)を開発し、この技術は全国に伝搬しました。

河川関連では毎年、台風や大雨による水害にまわられていたので、防災対策が急がれ、関東平野の多数の河川改修が頻繁に行われ、特に東京湾に流れていた利根川を太平洋に流れを変える大工事は特筆に値します(利根川東遷)。このようにして、防災および衣食住の改善で江戸住民の安全性は高まり、江戸は世界でも有数な100万人都市になったのです。

箇条書きとなりましたが、江戸時代は自然を大きく変え、都市化を進めた時代と言えます。

その後、東京湾は高度成長による大幅な埋立による干潟の消失と工業化による水質汚染などの自然破壊がありますが、これは次号の話題といたします。

### 編集後記

◇設立20年の節目にあたり、いま「いきもの図鑑」づくりが参加メンバーにより熱心に進行中です。◇本誌においても「エコシティ志木の20年」と題した特集記事を連載中で、3回目となる今号では初期の頃の活動を紹介します。当時の意気込みからいまの「いきもの図鑑」づくりへと続く活動に感慨深いものがあります。(梶)

## エコシティ志木通信

第80号 2015年12月1日

〈発行〉

### NPO法人エコシティ志木

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

電話/FAX 048-471-1338 (天田眞)

URL <http://kappa-no.net/eco-shiki/>

E-mail [eco-shiki@ff.e-mansion.com](mailto:eco-shiki@ff.e-mansion.com)



# イベントカレンダー

だれでも  
参加できるよ!



2015年                  2016年  
**12月 → 3月**



冬の野鳥観察会（昨年2月1日）のようす      〈写真：青木明雄〉

親子で自然を楽しみたい人  
地域の環境を守りたい人  
志木まるごと博物館を楽しみたい人 ……

会員募集中



■年会費■

正会員 個人 2,400円 団体 5,000円  
賛助会員 1口 5,000円

■入会方法■ 郵便振替等で年会費を納入してください  
〈振替番号〉00510-4-13225 〈加入者名〉エコシティ志木

**NPO法人エコシティ志木**

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108  
電話/FAX 048-471-1338 (天田眞)

【ホームページ】 <http://kappa-no.net/eco-shiki/>  
【Eメール】 [eco-shiki@ff.e-mansion.com](mailto:eco-shiki@ff.e-mansion.com)

## ◆8月◆

- 22日(土) 西原ふれあい第三公園定例作業
- 23日(日) いろは親水公園こもれびのこみち定例作業
- 24日(月) いろは親水公園関連団体意見交換会
- 30日(日)(仮称) 志木いきもの図鑑現地調査(荒川堤外)

## ◆9月◆

- 6日(日) いろは親水公園カヤ原オオブタクサ駆除作業
- 6日(日)(仮称) 志木いきもの図鑑現地調査(西原斜面林)
- 7日(月) 志木小学校こどもエコクラブ
- 10日(木) エコシティ志木広報部会
- 13日(日) 西原ふれあい第三公園定例作業
- 16日(水) エコシティ志木9月定例運営会議
- 18日(金) 新河岸川流域川づくり連絡会
- 19日(土) 柳瀬川生き物ウォッチング
- 19日(土)(仮称) 志木いきもの図鑑全体会議
- 20日(日) 志木の自然観察「五感で感じる川のまち志木」

- 23日(水) 西原ふれあい第三公園定例作業
- 26日(土) いろは親水公園こもれびのこみち定例作業
- 27日(日) 志木コミュニティまつり(コミュニティ協議会)
- 29日(火) カヤネズミ原っぱ応援作戦準備作業
- 30日(水) 志木第四小学校5年柳瀬川総合学習

## ◆10月◆

- 4日(日) カヤネズミ原っぱ環境応援作戦 2015
- 7日(水) 志木第三小学校3年柳瀬川総合学習
- 12日(月祝) 「つむじ銀杏で街あわせ」 出展
- 16日(金) 「いろは遊学館ふれあい祭り」 志木小生徒見学
- 17日(土) 「いろは遊学館ふれあい祭り」 出展
- 18日(日) 「いろは遊学館ふれあい祭り」 出展
- 19日(月) 志木小学校こどもエコクラブ
- 21日(水) 宗岡第三小学校5年柳瀬川総合学習
- 21日(水) エコシティ志木10月定例運営会議
- 22日(木) 志木第四小学校5年柳瀬川総合学習(教室)
- 24日(土) 西原ふれあい第三公園定例作業
- 24日(土)(仮称) 志木いきもの図鑑全体会議
- 25日(日) いろは親水公園こもれびのこみち定例作業
- 25日(日)(仮称) 志木いきもの図鑑現地調査(上宗岡)

## ◆11月◆

- 3日(火) 志木市民文化祭出展(自然工作)
- 7日(土) 黒目川・秋の川まつり展示(朝霞県土)
- 8日(日)(仮称) 志木いきもの図鑑全体会議
- 9日(月) 新河岸川流域川づくり連絡会
- 13日(金) 志木小学校5年柳瀬川総合学習
- 15日(日)(仮称) 志木いきもの図鑑現地調査(上宗岡)
- 16日(月) 志木小学校こどもエコクラブ
- 18日(火) エコシティ志木11月定例運営会議
- 20日(金)(仮称) 志木いきもの図鑑分科会
- 21日(土) 西原ふれあい第三公園定例作業
- 21日(土) シーズンズスイート志木の杜・自然体験イベント
- 22日(日) いろは親水公園こもれびのこみち定例作業

## 冬の斜面林手入れに参加しよう

斜面林の手入れには、誰でも参加できます。会員以外の方の参加も大いに歓迎します。

いよいよ冬の季節となりました。落葉樹の葉が、パラパラと音を立てて落ちていきます。遊歩道にも土が見えなくなるくらいに落ち葉が積もってきます。

道に積もった落ち葉は、雨にぬれると更に滑りやすくなり、とても危険です。特に階段に積もった落ち葉は危険です。車の通る道路まで覆い被さるような木から落ちる枯葉は、車に潰されて、細かくなり、風に吹かれて舞い散る事になります。汚くなっているところには、ゴミも捨てられやすくなります。



気分よく、安全に通れる遊歩道を確保するのが、これからの大事な作業の一つです。きれいな公園には、多くの方が散歩に来てくれます。

心のリフレッシュにも役立ち、気持ちのいい住民の憩いの場所になるのではないのでしょうか。私もリフレッシュさせてもらっています。一緒にやりましょう！

(青木明雄)

みなさんの参加をお待ちしています！

